



養成講座開催中

今年も Sotto の基柱ともいえるボランティア養成講座が 4 月 24 日（月）から始まりました。第 9 期を迎える今年度も年代や職業を問わず、そして京都府以外からもさまざまな受講生が参加されています。

実は本来なら、4 月 17 日（月）が第 1 日目の開講日となるはずでした。ところが当日は午後から近畿圏内は大雨、雷、暴風注意報と警報の嵐。致し方なく第 1 回目は中止の連絡をさせて頂くことになりました。しかし、注意報の発表が午後だったことから、既に Sotto に到着された受講生もちらほら。そこで数名の受講生と若干のスタッフとで、かるいミニワークをやって、その日は解散。はからずも、楽しいプレ養成講座となりました。

Sotto の養成講座の内容は体験学習（ロールプレイ）が中心。ロールプレイは非常に集中力が必要な体感訓練です。受講生にとっても、スタッフにとっても決して容易なものではありません。理論や理屈ではないこころの「ふれあい」や「ぬくもり」を、考えるのではなく、感じる。私たちは何度も何度もロールプレイを積み重ね、相手の気持ちに敏感に、そして自分自身の気づきを大切に、Sotto の一員としてのあり方、こころの支援の姿勢を身に着けていきます。

養成講座は基本的には全 10 回、夕方の 6 時 30 分から夜の 9 時 30 分まで Sotto で行います。例外は講座中、4 月 29 日（土）、4 月 30 日（日）、5 月 27 日（土）の 3 回。朝 9 時 30 分から夕方 6 時までの一日研修です。今年度は一日研修に限り、Sotto の近所の花屋町にある一念寺をお借りすることにしました。おかげさまで、歴史に彩られた静謐な雰囲気の一念寺での研修はとても充実した時間になりました。6 月の中盤には前期養成講座は終了し、いよいよ後期養成講座に入ります。

9 期の受講生の真摯な想いが、死にたいほどの悩みを抱えている方の心の居場所づくりに大いなる力を発揮してくれることを日々実感しています。

研修委員長 廣谷ゆみ子

事務局新体制について

Sotto では相談事業や居場所づくり事業の活動や組織全般をサポートする役割として事務局を置いています。今回は事務局が「どのようなことをしているのか」ということと、「今年度の体制について」ご紹介いたします。

事務局の主な仕事としては、①外部団体とのやり取り、②経理などの事務、③各委員会のサポート、があります。外部団体とは、自死・自殺の分野で活動されている方や団体、補助金を頂いている行政や助成財団などがあげられます。Sotto も設立から今年で7年目を迎え、他団体との連携が少しずつ多くなってきました。また、経理などの事務では、日常の会計業務や従業員の労務管理、今年度も開催日が近づいてまいりました理事会・総会の開催準備などを行っています。

最後に各委員会のサポートです。Sotto は自死・自殺にまつわる心の居場所の提供を目的として、相談事業や居場所づくり事業を行っています。事業の活動は各委員会に所属する委員長やボランティアメンバーが担います。事務局は裏方として、活動が円滑に進むように会計面やその他事業の準備をしています。間接的ではありますが、Sotto の活動が目的とするところを達成できるよう、役割を担っています。

今年度の体制としては、特に③の各委員会のサポートにより注力した体制で臨みます。活動をするためには、活動を担うこと以外にもしなければならないことが沢山あります。それらすべてをボランティアメンバーが担うことには限界もあります。Sotto のボランティアメンバーが活動中、「心の居場所づくりの提供」をしっかりと意識できるよう事務局がサポートをします。Sotto の活動にアクセスされた方が、ほっと一息つけるような、そんな場所が提供できるよう、事務局としても努めてまいります。

(メール相談委員長 長嶋蓮慧)

大阪コミュニティー財団助成金決定

Sotto は、会員の皆様からの会費や、募金を主な運営資金として活動しています。しかし、人材を確保し、安定した活動を持続するためにも、その他の資金源を確保することも課題となっています。出前講座を開催して収入を得たり、行政の助成金だけにこだわらず助成金を獲得する努力もしています。

今回は、大阪コミュニティー財団の助成金を申請。先日授与されることが決定し、4月17日に財団による「2017年度助成金目録贈呈式並びに2016年度助成金事業成果発表会」に出席してきました。

この助成金は、1年以上の活動実績を有する非営利団体が、実施を予定している公益に資する事業に授与されるもので、394件もの応募があったようです。会場には、およそ120人ほどの出席者があり、挨拶や総評、代表団体への目録授与、後半には昨年助成金を受けた団体の報告プレゼンが数件行われました。公益性、先駆性、実現可能性、予算の妥当性、拡張性広がりを持っているかどうかを基準に判断されたようです。

助成金を受けることも嬉しかったですが、Sottoの活動が評価されたことも嬉しかったです。今後の活動の励みにしたいと思います。センターへの助成金は30万円。財団の想いを無駄にしないように、事業資金として大切にに使わせていただきます。

(事務局長 吉田典生)

今月のことば

この旅は
自然へ帰る旅である

(高見順「帰る旅」『死の淵より』)

活動報告

- 4月期電話相談件数…156件（無言26件、よりそいホットライン担当38件を含む）
- 電話相談委員会 … グループ研修4月27日12名
- 4月期メール相談件数 … 受信件数116件 送信件数100件
- メール相談委員会 … 委員会会議4月26日3名
- 居場所づくり委員会 … Sotto おでんの会 “食事の場” 4月5日10名（参加者16名）
委員会会議4月25日5名
- グリーフサポート委員会 … 委員会会議4月13日6名
- 研修委員会 … 委員会会議4月11日

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2017年4月1日～30日 受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派
株式会社エクザム
葛野洋明
京都市・一念寺
金子宗孝
荻野昭裕
土井田利律子
西原華林
野呂淑子

仏教婦人会総連盟
ゼンキヨウジトコロキヨノブ
淡路市・宣勝寺
永江武雄
吉田郁子
島田芳江
岡橋如子
吉田典生
匿名希望 2名

Sotto コメント

空が高く、夏の空になってきました。日差しがきつく、本格的に暑くなってきそうですね。日陰に入ると涼しくて、つい日陰を探してあるいています。(N.Y.)

発行 2017年5月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp